

1996年度 未成年者の喫煙行動に関する全国調査

尾崎 米厚*¹ 箕輪 眞澄*² 鈴木 健二*³ 和田 清*⁴

I 緒 言

わが国では、未成年喫煙禁止法があるにもかかわらず数多くの未成年者が既に喫煙者であることが報告されている^{1)~3)}。アメリカ合衆国をはじめとして欧米諸国では、国家的な規模で未成年者の喫煙行動がモニタリングされている。しかし、わが国では全国を代表するような青少年の喫煙行動についての調査は、1990年に一度行われたにすぎず⁴⁾、その後の喫煙行動の動向はつかめていない。また、未成年者の喫煙に関連する要因を明らかにすることは、喫煙対策を策定するに当たって重要な情報を提供することにもなる。

そこで我々は、全国を代表するような科学的な調査方法による青少年の喫煙行動についての調査を企画した。これにより、わが国の未成年喫煙の実態を明らかにし、未成年者の喫煙対策をさらに推進するための基礎資料を提供することができる。

II 方 法

(1) 調査対象および調査内容

調査デザインは断面標本調査であった。調査は全国の中学校および高等学校（全日制の私立・公立高校）を対象とした。1995年5月1日現在のわが国の学校名簿である1996年全国学校総覧に登録されている中学校11,274校、高等学

校5,501校のうち中学校122校、高等学校109校を抽出して調査を行った。調査時期は1996年12月～1997年1月末であった。

1) 抽出方法

抽出方法は層別1段クラスター抽出であった。地域ブロックごとのサンプル校数がばらつかなないように、層別抽出は地域ブロックを層とした。学校間の喫煙率のばらつきが高等学校の方で大きいことが予想されたので、地域ブロック別の喫煙率の信頼区間を狭くするために高等学校の地域ブロックの区切りを大きくした。従って、中学校は12層、高等学校は6層の層をつくって抽出した。調査対象者は抽出された学校の生徒全員を調査対象とした。従って、学校を1つのクラスターと考えた抽出法を採用した。

抽出標本数（サンプルサイズ）は、1990年に行った中・高生の喫煙行動に関する全国調査で得られた学校別喫煙率の分散と調査回答率を利用して算出した。すなわち、学校単位の喫煙率とその学校間での分散が喫煙率の場合と同様であると仮定して計算を行った。中学校では、全国の喫煙率の推定値の95%信頼区間が±0.5%であるためには112校必要である。±1%であるためには30校で十分である。高校では、全国の喫煙率の推定値の95%信頼区間が±0.5%であるためには797校も必要である。これは学校別喫煙率の分散が中学に比較して極めて大きいからである。同様に、±1.5%であるためには99校、±2%であるためには58校必要である。高校は

* 1 国立公衆衛生院疫学部感染症室長 * 2 同部長 * 3 国立療養所久里浜病院精神科医長

* 4 国立精神・神経センター精神保健研究所薬物依存研究部長

平均在校生徒数が中学の約2倍であることを考えるとあまりサンプルサイズを増やせないで、調査対象校数は100校前後が適当だと考えられた。このような過程で決定した抽出数を、地域ブロック別の生徒数に従って、わりふって地域ブロック別の抽出数を決定した。

各地域ブロックにおける調査対象校の抽出は各校の生徒数に従って行った(確率比例

抽出)。実際には学校回答率が低い場合も考慮して、中学校122校、高等学校109校を抽出した。

2) 調査内容

調査内容は、過去にわが国や諸外国で行われた未成年者の喫煙行動に関する調査内容を参考にして決定した。喫煙頻度、初めての喫煙年齢については、前回の全国調査やアメリカ合衆国等の諸外国の調査との比較ができるように同一の基準を設けた。喫煙量、入手経路等は、それぞれの国により特徴が異なるので、わが国で今までに行われた調査を参考に、多少の修正を加えて作成した。喫煙行動の関連要因として、喫煙は体に悪いと思うかどうか、家族や友人の喫煙状況、親とのコミュニケーションの量(親と過ごす時間の長さ、親に悩みを相談する方かどうか)、親に喫煙を勧められたかどうか、親にたばこを吸っているところを見つけたことがあるかどうか、朝食の摂取頻度、ジュース・炭酸飲料・コーヒーまたは紅茶の摂取頻度、クラブ活動への参加状況、学校が楽しいかどうか、将来の希望進路、飲酒状況を尋ねた。

(2) 調査の実施

1) 調査手順

抽出学校の学校長宛に調査の協力を依頼する文書と共に在校生全数分の調査票を送付した。調査の協力を受諾した学校は、各教室内で担任が調査票を配布して調査を行った。生徒は自記式無記名の調査票を記入直後、各自に同時に配

表1 性別学年別喫煙経験者率

	総 数		経験なし		経験あり		無回答	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
男								
中学1年	7 211	100	4 682	64.7	2 110	29.9	419	5.5
2年	7 152	100	4 166	59.9	2 573	35.1	413	5.0
3年	7 108	100	3 848	55.4	2 834	38.7	426	5.9
高校1年	12 079	100	5 413	47.3	6 075	47.7	591	4.9
2年	12 645	100	5 058	42.1	6 949	52.6	638	5.3
3年	10 921	100	4 039	38.7	6 282	55.6	600	5.7
女								
中学1年	7 158	100	5 589	79.5	1 257	16.7	312	3.8
2年	6 966	100	5 177	75.5	1 474	20.4	315	4.1
3年	7 203	100	5 182	73.2	1 708	22.7	313	4.1
高校1年	12 617	100	8 265	66.3	3 787	29.2	565	4.5
2年	12 771	100	7 864	62.1	4 368	33.6	539	4.4
3年	11 983	100	6 901	56.8	4 540	38.5	542	4.7

布された糊付き封筒に調査票を封入した。調査票の配布回収は担任教師に依頼し、調査の実施手引きに従ってもらった。教師には封筒を回収し、封を開けないままに国立公衆衛生院まで返送してもらった。

2) 調査票回収状況

中学校は122校に依頼し、80校より回答があった(回答率65.6%)。地域ブロック別にみると回答率にかなりばらつきがみられ、東北、北陸、四国で高く、近畿I(京都、大阪、兵庫)、北海道で低かった。高等学校は109校に依頼し、73校から回答があった(回答率67.0%)。地域ブロック別にみると中学のような回答率のばらつきは認められなかった。調査票は117,325通回収され、性別が不明であった1通、学年が不明であった1通、および回答内容に矛盾のあった1,419通を除いた115,814通を解析対象とした。

3) 集計解析

集計はSAS for Windows version 6.12(SAS Institute Inc.USA)で行った。喫煙行動に関する様々な相対度数(%)は、本調査の抽出方法に従って算出した。クラスター抽出であるため各層におけるそれぞれの質問項目に回答した者の割合は、各層における調査数を分母にし、分子を各質問項目に回答した者の数をあてればよい。全体の割合を算出するには各層の割合にそれぞれの層の重みを掛け合わせた値を加えていくことで得られる。重みは各層における母集団の生徒数の総計を分子に、全国の全生徒数を分母に

して得られる値である。

Ⅲ 結 果

(1) 喫煙経験者率, 現在喫煙者率, 毎日喫煙者率

性別学年別喫煙経験者率をみると, 男女とも学年が上がるにつれ喫煙経験者は増加した。男子では中学1年生で経験者率は既に30%あり, 高校2年より経験者は過半数に達した。女子でも中学1年生で経験者率は17%あり, 高校3年では4割近くに上った(表1)。

現在喫煙者率(月喫煙者率)をみると, 月1日以上喫煙した月喫煙者率は中学1年男子で7.5%であったのが学年が上がるにつれ増加し, 高校3年では36.9%にのぼった。そのうち毎日喫煙者(30日間毎日喫煙)の割合は中学1年ではわずか0.7%にすぎなかったのが, 高校3年男

子では25.4%に達し, 月喫煙者のかなりの部分を占めるに至った。女子でも中学1年の月喫煙者率はわずか3.8%であったが, 学年が上がるにつれ増加し高校3年では15.6%に達した。毎日喫煙者も高校3年では7.1%認められた。男女とも中学と高校の間につき現在喫煙者率と毎日喫煙者率の飛躍が認められた(表2)。

(2) 初めての喫煙学年

学年別に初めての喫煙経験学年を尋ねたところ, 男女とも高校1年までは小学校4年以下と回答した者の割合が最も高かった。次いで, 現在の学年より1あるいは2年くらい前と回答する者の割合が高かった。男子の高校2, 3年では, 中学生あるいは高校1年, 女子の高校2, 3年では中学2, 3年あるいは高校に入ってからと回答した者の割合が高かった。女子の方が男子より高い学年で初めての喫煙を経験している傾向が認められた(表3)。

表2 性別学年別にみたこの30日間の喫煙日数

	総 数		0日		1~2日		3~5日		6~9日	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
男										
中学1年	7 211	100	6 372	88.9	316	4.3	74	1.2	50	0.5
2年	7 152	100	6 100	86.1	336	4.5	109	1.3	81	1.3
3年	7 108	100	5 775	82.1	298	4.0	114	1.7	72	1.0
高校1年	12 079	100	8 505	72.7	511	4.2	257	2.2	192	1.6
2年	12 645	100	8 066	66.3	449	3.5	227	1.9	175	1.3
3年	10 921	100	6 329	60.8	318	2.9	154	1.4	127	1.2
女										
中学1年	7 158	100	6 654	93.4	153	2.1	52	0.7	19	0.3
2年	6 966	100	6 398	91.8	160	2.2	54	0.9	31	0.6
3年	7 203	100	6 572	91.5	168	2.5	54	0.7	37	0.7
高校1年	12 617	100	11 039	87.6	365	2.7	167	1.4	111	0.8
2年	12 771	100	10 658	83.3	413	3.5	206	1.5	133	1.0
3年	11 983	100	9 781	81.2	349	2.9	179	1.5	114	0.9

	10~19日		20~29日		毎 日		無回答		月喫煙者率(再掲)	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
男										
中学1年	40	0.5	26	0.3	42	0.7	291	3.6	548	7.5
2年	77	1.0	59	0.8	152	1.9	238	3.1	814	10.8
3年	117	1.4	135	1.8	355	4.6	242	3.5	1 091	14.4
高校1年	332	2.5	451	3.5	1 517	10.8	314	2.7	3 260	24.7
2年	323	2.3	473	3.7	2 620	18.3	312	2.7	4 267	31.0
3年	255	2.4	429	3.7	3 059	25.4	250	2.2	4 342	36.9
女										
中学1年	17	0.2	8	0.1	27	0.4	228	2.8	276	3.8
2年	29	0.4	30	0.6	58	0.7	206	2.8	362	5.4
3年	29	0.3	34	0.4	88	1.0	221	3.0	410	5.5
高校1年	133	1.1	101	0.8	302	2.4	399	3.2	1 179	9.2
2年	175	1.2	203	1.6	555	4.5	428	3.4	1 685	13.3
3年	164	1.4	209	1.8	817	7.1	370	3.2	1 832	15.6

(3) 喫煙量

1日平均喫煙本数をみると, 月喫煙者を分母にした割合を算出すると, 男子では1本未満あるいは1~4本吸う者の割合は学年が上がるにつれ減少するが, 5~9本, 10~14本, 15~19本吸う者の割合は学年が上がるにつれ増加した。女子では1本未満の者の割合が学年が上がるにつれ減少したが, 1~4本吸う者

表3 性別学年別にみたはじめての喫煙学年

	総数		未経験		小4以下		小5		小6		中1		中2	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
男														
中学1年	7 211	100	4 662	65.1	805	10.5	419	6.3	541	8.1	303	4.1	—	—
2年	7 152	100	4 129	59.3	736	9.7	466	6.6	507	6.4	581	8.5	300	4.1
3年	7 108	100	3 786	54.9	739	9.8	344	4.6	450	6.0	597	7.5	439	6.2
高校1年	12 079	100	5 115	44.9	1 115	9.1	649	4.9	752	5.8	1 122	8.1	1 123	8.8
2年	12 645	100	4 683	39.4	1 138	8.5	590	4.2	782	5.7	1 157	8.2	1 276	9.5
3年	10 921	100	3 733	36.5	861	7.6	454	4.0	634	5.3	997	8.5	1 108	9.6
女														
中学1年	7 158	100	5 640	80.0	539	6.7	228	2.9	250	3.6	172	2.7	—	—
2年	6 966	100	5 219	75.8	454	5.8	214	3.0	277	3.5	283	4.1	189	3.2
3年	7 203	100	5 185	73.3	447	6.2	187	2.3	214	2.9	307	4.0	294	3.7
高校1年	12 617	100	8 195	65.5	710	5.7	280	2.3	334	2.6	582	4.3	620	4.5
2年	12 771	100	7 707	60.8	572	4.4	239	1.7	266	2.0	494	3.7	697	5.0
3年	11 983	100	6 844	56.1	545	4.6	169	1.4	244	1.9	510	4.0	638	5.5

	中3		高1		高2		高3		わからない		その他		無回答	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
男														
中学1年	—	—	—	—	—	—	—	—	130	1.7	56	0.7	295	3.5
2年	—	—	—	—	—	—	—	—	115	1.6	52	0.6	266	3.2
3年	342	5.7	—	—	—	—	—	—	120	1.6	35	0.4	256	3.5
高校1年	1 029	8.3	617	5.3	—	—	—	—	175	1.5	50	0.4	332	2.9
2年	1 102	8.5	993	8.1	350	3.0	—	—	193	1.5	36	0.3	345	3.0
3年	883	7.7	892	8.3	492	4.7	356	3.2	201	1.7	29	0.3	281	2.6
女														
中学1年	—	—	—	—	—	—	—	—	84	1.1	37	0.4	208	2.6
2年	—	—	—	—	—	—	—	—	83	1.1	34	0.4	213	3.1
3年	218	3.1	—	—	—	—	—	—	81	1.2	17	0.2	253	3.2
高校1年	622	4.8	629	5.1	—	—	—	—	163	1.3	35	0.3	447	3.6
2年	570	4.6	855	6.9	645	5.2	—	—	168	1.3	28	0.2	530	4.1
3年	523	4.6	719	6.2	608	5.4	526	4.5	170	1.4	31	0.3	456	4.1

表4 性別学年別にみた1日平均喫煙本数（本質問における喫煙者を分母とした場合）

	総数		1本未満		1～4本		5～9本		10～14本		15～19本		20本以上	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
男														
中学1年	511	100	230	48.7	156	25.8	52	8.0	20	5.5	10	1.7	43	10.2
2年	771	100	248	37.8	253	28.9	113	14.2	62	8.4	27	2.0	68	8.7
3年	1 068	100	248	25.5	311	29.4	188	13.6	129	14.4	62	5.9	130	11.2
高校1年	3 227	100	484	18.2	895	28.8	671	19.9	525	15.0	311	8.1	341	10.0
2年	4 250	100	424	11.1	911	21.9	1 024	23.9	822	18.9	542	12.0	527	12.2
3年	4 311	100	302	7.5	730	17.8	1 020	23.3	985	22.3	662	14.9	612	14.2
女														
中学1年	256	100	131	53.4	82	31.0	14	4.3	5	1.0	5	1.5	19	8.8
2年	350	100	133	43.2	120	29.3	46	12.5	14	3.7	6	1.6	31	9.7
3年	398	100	136	44.0	139	29.4	39	8.1	24	5.2	27	5.1	33	8.2
高校1年	1 150	100	315	27.2	406	34.3	166	15.1	100	9.4	65	5.6	98	8.5
2年	1 652	100	371	23.4	563	33.3	300	18.1	171	10.9	97	5.8	150	8.5
3年	1 811	100	299	17.8	590	32.2	366	18.9	265	14.5	125	7.4	166	9.3

注 月喫煙者：この30日のうち1回でも喫煙した者

の割合は学年が上がっても変化は小さく、5～9本、10～14本、15～19本吸う者の割合は学年が上がるにつれ増加した。男女とも20本以上吸う者の割合は学年が上がってもさほど変化しな

かった（表4）。

（4） たばこの入手経路

月喫煙者のたばこの入手方法をみると、中学

表5 性別学年別にみたたばこの入手方法（本質問における喫煙者を分母とした場合）

	総数		コンビニ等		自販機		たばこ屋		もらった		家にあるたばこ		その他	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
男														
中学1年	1 764	100	83	5.5	360	20.4	89	5.8	312	17.5	287	15.9	148	9.9
2年	1 967	100	167	7.6	624	29.8	124	6.1	433	22.4	299	15.8	114	4.6
3年	2 188	100	285	12.4	952	41.5	267	11.4	560	25.3	290	14.3	101	4.6
高校1年	4 526	100	1 286	24.8	2 855	59.8	822	17.0	1 427	32.4	606	13.3	153	3.2
2年	5 471	100	2 038	33.2	3 805	67.1	1 215	20.2	1 564	28.2	720	12.3	208	3.5
3年	5 248	100	2 286	40.3	3 945	74.4	1 429	26.0	1 341	25.3	743	13.9	225	4.5
女														
中学1年	1 461	100	46	3.2	133	9.0	27	2.3	188	14.7	213	14.8	53	4.2
2年	1 520	100	64	4.7	276	19.6	46	4.6	234	16.0	270	19.8	51	2.8
3年	1 624	100	71	5.1	329	19.2	57	3.5	284	17.5	227	15.1	47	2.9
高校1年	3 105	100	264	9.1	994	33.0	141	4.8	739	23.1	413	13.4	81	2.9
2年	3 576	100	475	13.3	1 405	40.4	212	5.9	835	23.7	416	11.5	75	1.9
3年	3 495	100	682	19.4	1 595	46.5	295	8.7	811	23.9	459	14.1	56	1.6

1年の男子では自動販売機が最も多く、次いで、誰かからもらった、家にあるたばこを吸ったが多かった。学年が上がるにつれ自動販売機、コンビニエンスストア・スーパーマーケット・ガソリンスタンド等の店、たばこ屋で買う者の割合が急増した。高校3年男子では月喫煙者の74.4%が自動販売機から買っており、コンビニやたばこ屋といった対面販売の場でもそれぞれ40.3%、26%の者が買っていた。誰かからもらった、家にあるたばこを吸ったとする者の割合はあまり変化がなかった。

中学1年女子では家にあるたばこを吸うが、最も多く、次いで、誰かからもらった、自動販売機が多かった。女子でも学年が上がるにつれ自動販売機、コンビニ等およびたばこ屋で買う者の割合が増加した。特に自動販売機で買う者が増加し、高校3年女子では月喫煙者の46.5%が自動販売機を用いていた。次いで、誰かからもらったの23.9%、コンビニ等の19.4%であった。高校3年女子では8.7%の者がたばこ屋で買うと回答していた（表5）。

(5) 親によるたばこの勧めと喫煙を親に見つかった経験

親にたばこを勧められた経験を尋ねると、男子では学年を問わず4～5%が勧められた経験を持っていた。女子では2～3%の者が勧められた経験を持っていた（表6）。

表6 父母にたばこを勧められた経験と喫煙を見つかった経験

	総数		勧められた経験		見つかった経験	
	件数	%	件数	%	件数	%
男						
中学1年	7 211	100	313	4.4	450	6.6
2年	7 152	100	321	4.8	585	7.9
3年	7 108	100	372	5.3	821	10.7
高校1年	12 079	100	596	4.5	2 303	17.1
2年	12 645	100	571	4.1	3 212	23.2
3年	10 921	100	576	5.0	3 454	29.3
女						
中学1年	7 158	100	206	2.9	220	3.1
2年	6 966	100	216	3.1	268	3.7
3年	7 203	100	194	2.4	325	4.1
高校1年	12 617	100	303	2.6	706	5.4
2年	12 771	100	285	2.3	1 012	7.7
3年	11 983	100	266	2.3	1 211	10.6

親にたばこを吸うのを見つかった経験を尋ねると、男子では学年が上がるにつれ見つかった経験を持つ者の割合が増加した。高校3年男子では29%の者が親に喫煙を見つかった経験を持っていた。女子では高校生で学年が上がるにつれ見つかった経験を持つ者の割合が上昇した（表6）。

(6) たばこの身体への害の認識

たばこの身体への害の認識について尋ねると、男子ではどの学年でも88～90%の者が害があると回答していた。害はないと回答したものは2%強で、多少あると回答した者は4%前後であった。女子は害があると回答した者の割合はさらに高く、92～94%であり、害はないとする者の割合は1%台であり、多少あると回答した者

表7 性別学年別にみたたばこは体に害があると思うかどうか

	総数		害はない		多少ある		害がある		わからない		無回答	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
男												
中学1年	7 211	100	168	2.5	240	3.4	6 355	87.8	249	3.7	199	2.7
2年	7 152	100	160	2.2	309	3.9	6 285	88.7	217	2.7	181	2.4
3年	7 108	100	191	2.5	326	4.2	6 226	88.5	185	2.5	180	2.4
高校1年	12 079	100	294	2.6	565	4.4	10 797	89.6	194	1.5	229	1.9
2年	12 645	100	286	2.2	649	4.8	11 309	90.0	203	1.5	198	1.5
3年	10 921	100	271	2.5	548	4.8	9 733	89.3	188	1.7	181	1.7
女												
中学1年	7 158	100	91	1.1	164	2.5	6 651	93.0	123	1.9	129	1.4
2年	6 966	100	94	1.4	198	3.2	6 445	92.3	107	1.3	122	1.8
3年	7 203	100	103	1.7	181	2.6	6 715	92.7	75	0.9	129	2.0
高校1年	12 617	100	152	1.3	264	2.1	11 888	94.3	114	0.8	199	1.5
2年	12 771	100	166	1.2	327	2.6	11 995	94.1	82	0.6	201	1.5
3年	11 983	100	169	1.6	327	2.7	11 227	93.6	85	0.6	175	1.5

の割合は2～3%であった(表7)。

IV 考 察

今回の全国調査により、かなり多くの未成年者が既に喫煙者であることが再確認された。しかも、今回明らかになった喫煙率は1990年度に実施された第1回の全国調査の結果より高かった¹⁾²⁾。

前回調査と今回調査の調査方法上の相違点は、今回の調査ではクラスルームでの記入において各生徒に糊つき封筒を回答用紙と同時に配布し、無記名の調査票に記入の後すぐに封筒に調査票を入れ封をしてもらったことである。これにより、プライバシー保護への安心感が増し、喫煙行動をより正直に記入することができたと考えられる。今回の調査結果の方がより真実に近いと考えられ、高校生男子の喫煙率は欧米のレベルにほぼ達しているといつて良い状況にある⁴⁾⁵⁾。従って、わが国の特に男子は既に深刻な未成年喫煙の流行状況にあるといえる。

また、この喫煙率の差に未成年喫煙者率の増加が寄与しているかどうかは、方法論上の相違点の影響を排除することができないのでわからないため、今後も定期的に同様の調査法によるモニタリングが必要であるといえる。

初めての喫煙経験学年を尋ねるとかなりの者が既に小学生のころに経験していることも明らかになったため、小学生からの喫煙防止教育を

さらに充実させていく必要がある。

たばこの入手経路をみると、学年が低い場合は家にあるたばこを吸うという割合が相対的に高く、周囲の大人が未成年喫煙に関心を持ち、子どもがわかるようなところにたばこを置かないようにすることが求められる。また、自動販売機でたばこを買う者が多く、業界の自主規制による深夜時間帯の自動販売機使用中止が十分機能していないことがわかる。ただ、選択肢はやや異なるが前回の全国調査の結果と比較すると中学生と女子生徒では現在喫煙者のなかに占める自動販売機で買う者の割合は減少した⁶⁾。喫煙量が前回の全国調査に比較してやや増加したぐらいであることを考えると⁷⁾、むしろ対面販売でのたばこ購入に流れた可能性もある。従って、対面販売の場で大人が不用意に未成年者にたばこを売っていることが考えられ、よりいっそうの未成年者への販売禁止を徹底する必要がある。

今回の調査で数%の生徒は親に喫煙を勧められているという驚くべき結果が明らかとなった。従って、家にあるたばこを吸う生徒も多いこと、大人が子どもに対面販売の場でさえもたばこを売っていることなどをあわせると、わが国では大人はもっと子どもの喫煙に危機感や関心を持ち、たばこを吸わない世代づくりにもっと積極的に関与しなければならないといえる。

V ま と め

1996年度に行われた未成年者の喫煙行動に関する全国調査の概要を報告した。この集計により、わが国には数多くの未成年者が喫煙者であることがわかり、その状況は従来考えられていたよりも深刻であることが明らかになった。未成年者は1990年の全国調査時点でも莫大な金額のたばこ税をたばこを買うことにより支払っていることになるため⁷⁾、その一部でも喫煙対策に回し、早急な、未成年者への喫煙対策を推進する必要がある。

本研究は、平成9年度厚生科学研究費補助金(健康増進研究事業)による防煙の実態に関する研究班(主任研究者:箕輪眞澄)の研究として実施されたものである。

文 献

1) Osaki Y, Minowa M. Cigarette smoking among

junior and senior high school students in Japan. *Journal of Adolescent Health* 1996; 18: 59-65.

2) 尾崎米厚, 箕輪眞澄. わが国の中・高校の喫煙実態に関する全国調査(第1報)中・高校生の喫煙率. *日本公衛誌* 1993; 40(1): 39-48.

3) 川畑徹朗, 中村正和, 大島明, 他. 青少年の喫煙・飲酒行動—Japan Know Your Body Studyの結果より—. *日本公衛誌* 1991; 38: 885-899.

4) Kann L, Kinchen SA, Williams BI, et al. Youth Risk Behavior Surveillance—United States, 1997. *MMWR* 1998; 47(SS-3): 1-89.

5) King A, Wold B, Tudor-Smith C, et al. The Health of Youth A Cross-National Survey. World Health Organization, Canada: 1996.

6) Osaki Y, Kawaminami K, Minowa M. Estimating adolescent cigarette consumption in Japan. *Journal of Epidemiology* 1999; 9(2): 56-60.

7) 尾崎米厚, 箕輪眞澄. わが国の中・高校生の喫煙者のタバコの入手経路に関する研究. *公衆衛生研究* 1998; 47(4): 347-352.

■発売中

日本の患者と医療施設

—グラフでみる保健統計—1999

A 4判 47頁 定価 本体1,400円 + 税

平成8年の医療施設調査, 患者調査をはじめとする保健統計を, カラーグラフを用いてまとめたもの。外国の方々にも紹介できるよう, グラフには英文を併記。

財団法人 厚生統計協会

〒106-0032 東京都港区六本木5-13-14
TEL 03-3586-3361